

世界史B 資料 新約聖書 その他の資料

「天の国で一番偉いもの」「迷子の羊」

そのとき、弟子たちがイエスのところに来て言った。「それでは、天の御国では、だれが一番偉いのでしょうか。」そこで、イエスは小さい子どもを呼び寄せ、彼らの真中に立たせて、言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたも悔い改めて子どものようにならない限り、決して天の御国には、はいれません。だから、この子どものように、自分を()1者が、天の御国で一番偉い人です。」
マタイ 18・1~4

「あなたがたはどう思いますか。もし、だれかが()2を持っていて、そのうちの一匹が迷い出たとしたら、その人は九十九匹を山に残して、迷った一匹を捜しに出かけないでしょうか。そして、もし、いたとなれば、その人は迷わなかった九十九匹の羊以上にこの一匹を喜ぶのです。このように、この小さい者たちのひとりが滅びることは、天にいますあなたがたの父のみこころではありません。」
マタイ 18・12~14

「パリサイ人、律法学者を非難する」
「律法学者、パリサイ人たちは、モーセの座を占めています。ですから、彼らがあなたがたに言うことはみな、行ない、守りなさい。けれども、彼らの()3をまねてはいけません。彼らは言うことは言うが、実行しないからです。また、彼らは重い荷をくくって、人の肩に載せ、自分はそれに指一本さわろうとはしません。彼らのしていることはみな、人()4ためです。経札の幅を広くしたり、衣のふさを長くしたりするのもそうです。また、宴会の上座や会堂の上席が大好きで、広場であいさつされたり、人から()5と呼ばれたりすることが好きです。」
マタイ 23・2~7

「最後の晩餐」 (過越しの食事をする)

さて、夕方になって、イエスは()6といっしょに食卓に着かれた。みなが食事をしているとき、イエスは言われた。「まことに、あなたがたに告げます。あなたがたのうちひとりが、わたしを裏切ります。」すると、弟子たちは非常に悲しんで、「主よ。まさか私のことではないでしょう。」とかわるがわるイエスに言った。イエスを裏切ろうとしていた()7が答えて言った。「先生。まさか私のことではないでしょう。」イエスは彼に、「いや、そうだ。」と言われた。すると、()8がイエスに答えて言った。「たとい全部の者があなたのゆえにつまずいても、私は決してつまずきません。」イエスは彼に言われた。「まことに、あなたに告げます。今夜、鶏が鳴く前に、あなたは三度、わたしを知らないと言います。」
マタイ 26・21~34

「ユダの裏切り」

イエスがまだ話しておられるうちに、見よ、十二弟子のひとりであるユダがやって来た。--彼はすぐにイエスに近づき、そのとき、群衆が来て、イエスに手をかけて捕えた。すると、イエスといっしょにいた者のひとりが、手を伸ばして剣を抜き、大祭司のしもべに撃ってかかり、その耳を切り落とした。そのとき、イエスは彼に言われた。「剣をもとに納めなさい。剣を取る者はみな()9で滅びます。」
マタイ 26・47~52

「ペテロの否認」

ペテロが外の中庭にすわっていると、女中のひとりが来て言った。「あなたも、ガリラヤ人()10といっしょにいましたね。」しかし、ペテロはみなの前でそれを打ち消して、「何を言っているのか、私にはわからない。」と言った。--すると彼は、「そんな人は知らない。」と言って、のろいをかけて誓い始めた。するとすぐに、()11が鳴いた。そこでペテロは、「鶏が鳴く前に三度、あなたは、わたしを知らないと言います。」とイエスの言われたあのことばを思い出した。そうして、彼は出て行って、激しく泣いた。
マタイ 26・69~75

「ゴルゴダの丘での処刑」 (イエスの死)

同じように、祭司長たちも律法学者、長老たちといっしょになって、イエスをあざけて言った。「彼は他人を救ったが、自分は救えない。イスラエルの王さまなら、今、()12から降りてもらおうか。」~~~三時ごろ、イエスは大声で、「**エリ、エリ、レマ、サバクタニ**」☆と叫ばれた。これは、「わが神、わが神。どうしてわたしを()13になったのですか。」という意味である。
 (注☆はアラム語のギリシャ文字表記)
マタイ 27・46
「どくろ」と呼ばれている所に来ると、そこで彼らは、イエスと犯罪人とを十字架につけた。犯罪人のひとりは右に、ひとりは左に。そのとき、イエスはこう言われた。「父よ。彼らをお許してください。彼らは、何をしているのか自分でわからないのです。」

彼らは、くじを引いて、イエスの着物を分けた。民衆はそばに立ってながめていた。指導者たちもあざ笑って言った。「あれは他人を救った。もし、神の()14で、選ばれた者なら、自分を救ってみろ。」兵士たちもイエスをあざけり、そばに寄って来て、酸いぶどう酒を差し出し、「ユダヤ人の王なら、自分を救え。」と言った。
ルカ 23・34

1,ヨハネによる福音書(冒頭)

第一章

0101> 初めに言があった。言は主と共にあった。言は**神**であった。

0102> この言は初めに神と共にあった。

0103> すべてのものは、これによってできた。でたもののうち、一つとしてこれによらないものはなかった。

0104> この言は命であった。そしてこの命は人の光であった。

0105> 光はやみの中で輝いている。そして、やみはこれに勝たなかった。

0106> ここにひとりの人があつて、神からつかわされていた。その名をヨハネと言った。

0107> この人はあかしのためにきた。光についてあかしをし、彼によってすべての人が信じるためである。

0108> 彼は光ではなく、ただ、光についてあかしをするためにきたのである。

0109> すべての人を照らすまことの光であつて、世にきた。

2.ニカイア信条(325年)

我らは、見えるものと見えざるものすべての創造者にして、すべての主権を持ち給う御父なる、**唯一の神**を信ず。

我らは、唯一の主**イエス・キリスト**を信ず。

主は、御父より生れたまいし神の独り子にして、御父の本質より生れ、(神からの神)、光からの光、まことの神からのまことの神、造られずして生れ、御父と本質を[]aにして、天地万物は総べて彼によりて創造されたり。

主は、我ら人類の為、また我らの救いの為に下り、しかして肉体を受け人となり、苦しみを受け、三日目に甦り、天に昇り、生ける者と死ぬる者とを審く為に来り給う。

また我らは**聖霊**を信ず。

「主の存在したまわざりし時あり、生れざりし前には存在したまわず、

また存在し得ぬものより生れ、

神の子は、異なる本質或は異なる実体より成るもの、造られしもの、

変わり得るもの、変え得るもの」と宣べる者らを、

公同なる使徒的教会は、[]bべし。

3,カルケドン信条(451年)

われわれはみな、教父たちに従つて、心一つにして、次のように考え、宣言する。

われわれの主**イエス・キリスト**は唯一・同一の子である。同じかたが**神性**において完全であり、この同じかたが**人間性**においても完全である。

同じかたが**真の神**であり、同時に**理性的靈魂**と**肉体**とからなる**真の人間**である。

同じかたが**神性**において**父と同一本質**のものであるとともに、**人間性**において**われわれと同一本質**のものである。「罪のほかはすべてにおいてわれわれと同じである」

神性においては、この世の前に父から生まれたが、この同じかたが、人間性においては終わりの時代に、われわれのため、われわれの救いのために、神の母、処女**マリア**から生まれた。

彼は、唯一・同一の**キリスト**、主、ひとり子として、

二つの本性において混ぜ合わされることなく、変化することなく、分割されることなく、引き離されることなく知られるかたである。

子の結合によって二つの**本性の差異**が**取り去られるのではなく、むしろ各々の本性の特質**は**保持され、**

唯一の位格、唯一の自立存在に共存している。

彼は二つの位格に分けられたり、分割されたりはせず、

唯一・同一のひとり子、神、[]c、イエス・キリストである。